

科目名

哲学の出発点 What is Philosophy ?

1年 前期 2単位 選択

広川 明

概要

永劫ともいえる宇宙の歴史のなかで、人はある時あるところに生まれてくる。その一瞬ともいえる生涯が終わると、もう二度とこの世界に現れることはない。人間に与えられた人生は一度きりであり、それはやり直しのきかない貴重なものである。

そうだとするのに、たいていの人は仕事に追われ家族を養い、やがて老いて死んでゆくのみである。だがそれならば、人は何のためにこの世界に生まれてきたのか。その生に何の意味があるのだろうか。そもそも死んだらどうなるのだろうか。

これらは現世の人間存在をつらぬく生と死の問題である。人間の生と死にまなざしを向け、哲学や宗教がそれをどう捉えてきたのか考えてみることにしたい。

目標

人間の生と死をみつめ、それを通して生きていくことの意味や価値を考えること。

授業計画

- ① はじめに：生と死を問うことの意味
- ② 死の人称性：一人称（私）、二人称（あなた）、三人称（彼、彼女）の死
- ③ 一人称の死
- ④ 別れ：二人称の死の意味
- ⑤ 誕生と死：どこから来てどこへいくのか
- ⑥ 死後の問題：死んだら人はどうなるのか
- ⑦ 私はなぜ生まれてきたのか
- ⑧ 宗教への道
- ⑨ 宗教による世界と人間の解釈
- ⑩ 神話：世界と人間の存在の意味
- ⑪ 自然科学と宗教
- ⑫ 物語りとしての宗教
- ⑬ 宗教と人生
- ⑭ 現代人は宗教を信じることができるか

授業方法

通常の講義のほかに、授業中に小レポート（数回）を実施する。また、授業計画に応じたビデオを視聴する予定である。

授業到達度の評価

- ① 授業中（あるいは授業終了後）に時間を設けて質問を受ける。質問がない場合は、教員より学生に質問して、理解度を確認する。
- ② 授業が数回進んだところでアンケートをとり、理解度や授業の難易度をチェックする。また、分からない点なども指摘してもらう。

評価方法

授業中に実施する小レポート（25%）、定期試験（75%）により総合的に評価する。

教材

教科書：使用しない。板書はある程度くわしくする予定。

参考書：トルストイ『イワン・イリッチの死』（米川正夫 訳、岩波文庫）

パスカル『パンセ』（前田陽一・由木 康 訳、中央公論社）

T. ネーゲル『コウモリであるとはどのようなことか』（永井 均 訳、勁草書房）他の参考書は授業中に紹介する。